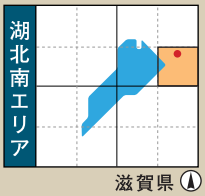
史跡
県指定

山津照神社古墳

やまつてるじんじゃこふん

近江町能登瀬　昭和44年9月12日指定



山津照神社古墳は、古代の天皇家と深い関わりのある息長（おきなが）氏に関係する古墳と考えられています。明治15年、社殿の工事の際に、偶然発見された遺物は、大陸との関係もうかがえる豪華なもので、この古墳の被葬者が、大きな力を持った人物であることを物語っています。

当時のできごと	
507年	継体天皇を越前から迎え即位
528年	継体天皇 磐井の乱を鎮圧させる
531年	継体天皇没



山津照神社古墳

息長氏と山津照神社古墳

息長氏は、5世紀の中頃から、坂田郡一帯に勢力を持った古代氏族です。もとは渡来系氏族か、その影響を強く受けた氏族であり、朝鮮貴人来着の聖地、越前笥飯（けひ）浦の神を守護神としています。継体天皇の父が息長氏と言われる他、日本武尊（やまとたけるのみこと）、神功皇后の伝承にも深く関わっています。息長という変わった名前は、「海士（あま）の息長」、「鍛冶の鞴（ふいご）の息長」といった職業に由来するとも、息噴（いぶき＝伊吹山）と一対の、息長という地名に由来するともいわれています。継体天皇や敏達天皇の妻を出すことにより、大和へも進出し、その勢力を拡大します。

近江町内に所在する山津照神社古墳、塚ノ腰古墳、人塚古墳などは、最盛期の息長氏の古墳と考えられています。



五鈴鏡

古墳の構造と出土遺物

山津照神社古墳は、前方部端と後円部端が削平を受けており、正確な規模は不明ですが、全長が約63m程度で、前方部の幅が後円部の直径より大きな、典型的な後期の前方後円墳です。主体部は横穴式石室で、内部に石棺が納められていると考えられています。

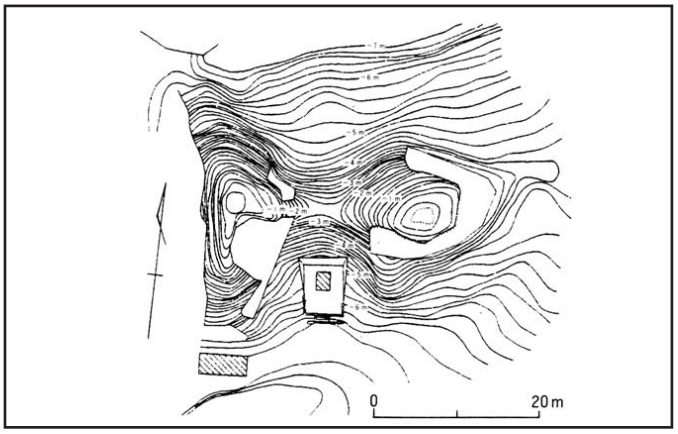
明治15年に社殿工事を行った際に、主体部が開口され、その際に、内部から3面の鏡を始めとする豪華な副葬品が多量に出土しました。出土品には高島町鴨稲荷山古墳（学習シート　No.073）と共通するものもみられ、継体天皇を軸とした、両者の関係が注目されます。これらの遺物は滋賀県有形文化財に指定されています。また、墳丘上からは朝顔形埴輪、円筒埴輪が出土しています。これらの出土遺物の年代から、この古墳は、6世紀前半代に築造されたものと考えられます。

〈山津照神社古墳から出土した県指定有形文化財〉

銅鏡	
獣文鏡	1面
内行花文（ないこうかもん）鏡	1面
五鈴鏡（ごれいきょう）	1面
武器など	
三輪玉	5個
直刀	3口
刀子（とうす）［1口に鹿角（ろっかく）装あり］	3口
馬具	
雲珠（うず）破片	1個分
辻金具破片	2個
杏葉（ぎょうよう）	2個
轡（くつわ）	1組
鐙（あぶみ）	半足
鞍橋覆輪（くらぼねふくりん）破片	若干
土器類	
壺	1口
提瓶（ていべい）	1口
埴輪	
破片	若干



三輪玉



山津照神社古墳墳丘測量図

関連する文化財

息長古墳群（近江町）	塚ノ越古墳、人塚山古墳などの在地息長氏関連の古墳群
稲荷山古墳（高島町）	学習シートNo.073

もっと深く知りたい

近江町はにわ館　☎0749-52-5246　坂田郡近江町顔戸281-1

安土城考古博物館　☎0748-46-2424　蒲生郡安土町下豊浦6678

山津照神社古墳へのアクセス　JR北陸本線　坂田駅下車
北陸自動車道　米原インター



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　　平成16年3月